

3年 学年通信

We Can

松洋中学校三年
学年通信 第六号



二学期スタート! 思い出に残る学期に!

◎あつという間に一ヶ月以上あった夏休みも終わりました。勉強に遊びに、充実した日々を過ごすことができたでしょうか?部活動も勇退して少し寂しくはありますが、後輩たちの活躍を見守り、時にはアドバイスもしてあげてください。先輩に教えてもらうことは、嬉しいものです。

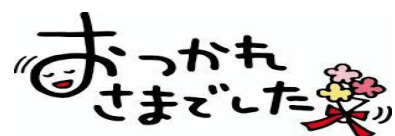
◎さて、いよいよ今日から二学期のスタートです。二学期は、松洋祭や修学旅行、音楽会、マラソン大会など、三年生として「パワー」を発揮する行事がたくさんあります。とにかく、何でも行動に出して下さい。ひとつひとつ一生懸命、真剣に取り組み、挑戦してみてください。それが未来の自分への財産になります。

◎また、二学期は進路決定に向けてたいへん重要な時期でもあります。九月からは、各高校の学校説明会や体験学習も始まります。興味のある学校が実際にどのような場所なのか、その目で確かめて来て下さい。マナー良く、真剣な態度で臨み、たくさんの情報を収集していきましょう。

◎まだまだ暑い日が続きますが、暦の上では「秋」になりました。秋は穏やかな気候などから様々なことに挑戦・集中しやすい季節です。クラス一丸となって、いろんな面で思い出に残る学期にしていきたいですね。

夏季大会 ~最終結果~

- 野球部 県大会ベスト8
- バレー部 女子 県大会ベスト8
- 陸上競技部 全国大会800m出場 Y. K
- バドミントン部 女子団体 県大会出場
女子シングルス 県大会出場
M. O
M. N
女子ダブルス 県大会出場
O・Mペア



※上記の結果は、3年生のみの結果です。

~「衣替え」期間について~

9月20日(火)から10月7日(金)まで移行期間です。

この期間中は、夏・冬制服どちらでも構いません。

10月11日(火)より冬制服に完全移行です。服装が乱れないよう、きちんと着用しましょう!

男子…上着のボタンは全て留める。

シャツをズボンの中に入れる。

ベルトを必ず付ける。

女子…シャツはスカートの中に入れる。

スカートの長さはひざ程度。

※男女とも名札を付けるのを忘れずに!



第4回習熟度テスト

10月17日(月)に実施します。前回の結果を踏まえ、さらに良い結果を出せるよう全力で挑みましょう!!



八・九月の行事予定

八月

二十九日(月) 二学期始業式(給食あり)

課題テスト①

三十日(火) 課題テスト②

三十一日(水) 身体測定

※体操服半袖半ズボン・めがね・ハンカチ

九月

三日(土) 紀央館高校体験学習

四日(水) ノーメディアデー

一七日(土) 日高高校体験学習

一九日(月) 敬老の日

二十二日(火) 生徒会役員選挙

二十三日(金) 秋分の日

吹奏楽定期演奏会(市文)

二十九日(木) 中間テスト時間割発表

三十日(金) 修学旅行説明会(保護者)

保護者のみなさまへ

夏季休業中ご多忙の中、三者面談にご協力いただきありがとうございます。子どもたちのご家庭での様子や進路についての家族の思いなどを知ることができました。今後引き続き、様々な教育活動へのご協力をよろしくお願い致します。

また、九月三十日(金)に「修学旅行説明会」を予定しています。近日、説明会についての案内をお子様に配付させていただきます。お忙しい折とは存じますが、ご出席の程、よろしくお願致します。





感想

平和学習

～「永遠の0」を観て～



※一部抜粋

最初は宮部さんのことを恨んでいた人が、命をかけてでも守ろうという気持ちになったり、同じように生きて帰りたいと考え直したりと、宮部さんが生きて帰ろうとしたことで、多くの人の生き方を変えていて、とてもかっこいいと思いました。

宮部さんはとても思いやりがあって、敵の人を倒しても喜ばずに悲しんでいました。死ぬということは恐ろしいということをよく分かっていたのだと思います。

戦争に行っている人は、色々な人がいる。その中で、宮部さんは命を大切に「生きて帰る」と強く思っている人だった。他の人たちに何を言われようが家族のことを思い、ここまで頑張れるのがどれだけ辛くて苦しくて難しいのかが分かった。

この時代は天皇陛下のため、お国のためと、死んでいくことにさほど抵抗は無かったかもしれないが、それでも宮部は「生き残る努力をしろ」と言った。自分も大切な人がいるので、命を無駄にしないようにしたいと思いました。

「特攻隊」の紙をもらった学生たちもまだ若いから死にたくないはずなのに、ほとんどの人が出る方に丸をつけて、すごい勇気を持っているなど思った。これから戦争は二度としてはいけないものだと改めて知ることができた。

戦争って人がいっぱい死ぬから悲しいけど、後から話を聞くと分には人のために死ぬるような人ってかっこいいと思う。宮部という人は、色々な人から尊敬されるような人だった。そうなるのは難しいと思うけど、自分も尊敬されたい。

自分の部下や教え子に少しでも生き残って、生き延びてもらうために、戦闘機のエンジンなどの確認を徹底的にしたり、戦いの実践をするのを少しでも先延ばしにしたりした宮部さんの考え方にとても感動した。

人はつながっていると思いました。宮部さんの代わりに、大石さんや着物をきた怖い人が、松乃さんや清子さんを守っていたところなどがつながっているなど感じました。

この映画を観て、私も私の先祖の人がどんな人生だったのか、少し調べてみたくなりました。

松乃と交わした「死んでも、生まれかわってでも君と清子のものに必ず戻ってくる」という約束を宮部は守った。宮部は臆病ではなく、誰よりも強い人だと思った。死を無駄にしないこと、物語を続けることが戦争で生き残った人の使命だと思った。

宮部さんは初め、臆病者だと思われていたけれど、だんだん宮部さんについて聞くと、みんなのことを考え、みんなを愛している人だと感じました。

宮部さんが手紙を残していったのが印象に残った。ここまで生き残ったのに、最終的に特攻で亡くなるのは悲しい気持ちになった。けれど、宮部さんは家族に会える目、その目に光があるように見えた。それはきっと手紙を残したから、家族が壊れないと思ったから、安心して心残りがないように逝けると思ったからだと思う。

心に残っている言葉は、「いつでも死ぬるから生き残る努力をしろ」です。生きてると辛いこともあるけど、幸せもあるから頑張れと言っているような気がしている言葉だった。

宮部さんの事をよく知っている人たちが「あの人は死ぬべきではなかった」と言っているシーンをみると、それだけすごい人だったのだと思ったり、本当に人思いの方だったのだと思えた。みんなこんないい人になるべきだと思った。

本当に相手を思うということであれば、すごくいいお手本だなど思いました。そして戦闘機に乗っている姿は、すごく勇ましくかっこよく見えました。僕も宮部さんみたいになりたいと思いました。

今の平和さを感じられたと共に、当時の人の考え方の差を感じた。当時の日本の国民の考え方とは違う意見を曲げずに持ち続けた宮部さんは、今の社会と同じ考え方を持っていて、今の社会を作るもとの人なのだろうと思った。

宮部さんは学徒出陣で来た学生たちを特攻に行かせる許可を出さなかった。これまでたくさんの仲間が死んでいるから、まだ若い学生たちをこんなところで死なせたくないから、許可を出さなかったのだと私は思う。その中で、宮部さんも特攻へ行くことになった。「最後のわがままを聞いてほしい」の言葉は、まるで自分が死ぬのを覚悟しているかのようで、少し悲しい気持ちになった。